

近世京都の芸能と暮らし

—京都市指定文化財「御土居跡（西九条周辺）出土品」をめぐって—

天正 19 年（1591），豊臣秀吉が築いた都市京都の城壁「御土居」。堀と土塁からなるこの防御施設は，やがて訪れた太平の世には無用の長物となり，堀の一部はゴミ捨て場と化します。油小路八条から九条にかけての発掘調査では，御土居の堀跡から近世初期の多量の廃棄物が出土しました。注目すべきは，通常は地中で朽ちてしまう木製品が，ここでは堀の泥土に守られ，よくその形状を維持していたことです。それらは驚くべき品々でした。多様な表情を見せる人形頭の数々，刷毛や漆へらなど職人が使用する道具類，様々な品目が各地から運ばれたことを示す付札類など。これらは，「御土居跡（西九条周辺）出土品」と名付けられ，平成 31 年 3 月に京都市指定文化財となりました。「御土居跡（西九条周辺）出土品」の文化財指定を記念して，その尽きせぬ魅力を紹介するとともに，これを手掛かりに，近世京都の芸能と人々の暮らしの実像に迫ります。



- 報告 「御土居跡（西九条周辺）出土品について」 内田好昭（京都市埋蔵文化財研究所）
- 講演1 「御土居跡出土の人形と近世京都の芸能」
山路興造（元京都市歴史資料館館長）
- 講演2 「御土居跡出土の木簡と近世京都の人々の暮らし」
野地秀俊（京都市歴史資料館館員）
- 対談 山路興造，野地秀俊（司会：内田好昭）

* 特別展示「御土居 洛中洛外のはざま」
令和元年 11 月 24 日まで京都市考古資料館で展示中

◇お問い合わせ◇

京都市考古資料館
TEL:075-432-3245（代）

FAX:075-431-3307

Eメール：toiawase@kyoto-arc.or.jp

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

